

# 助成年度：平成4年度

[所属] 那覇市立小禄南小学校  
[役職] 教諭  
[氏名] 大山 了己

[課題]

## 八重山の民俗音楽に見られる自然環境の認識

[内容]

八重山は各島々でサンゴ礁が発達しており、島人はそれを島の生活として最大限に利用してきた。そのため、島人は島とサンゴ礁（海）の認識がはっきりしている。例えば、島の数々の場所に名前がつけられており、島人が島の環境を自分との関わりとして認識していたことを物語っている。さらに、島では農業が主であり、農業に関連する気象条件（雨や風等）を星、雲、動物等からの的確に感じ取っていた。畑は生きて行くうえで欠くことのできない空間であるが、さらに、海は八重山の島人にとって無限の可能性を秘めた環境空間であり、島人が生きて行くうえで重要な空間でもある。

今回は八重山のユンタ、ジラバ、アヨーの歌の中でも自然に関連する歌を取り上げて、島の人々が認識した環境空間をとらえてみた。また、八重山の自然に関する民俗音楽を分析して7つの民族誌的内容があることがわかった。分類の項目は以下に記載した。

### 1. 農耕的儀礼

粟や米の収穫や播種の時期、スバル星座との関係等農耕に関連する大事な事。

### 2. 漁に関する教訓

漁に行く時期や天気等気象の状態を自然と関連して知らせる。

### 3. 自然と果報の願い

自然と人々は一体であり、それは平和で島人の願いでもある。

### 4. 他の島の場所の教え

隣の島から生活に必要なものを取るときに島の場所や木の様子を知らせる。

### 5. 祝い事の関係

動物に例えて島の人々が長生きして欲しい。

### 6. 教訓

嫁に行くとき動物や風邪に例えて、注意、幸せ、平和を願う。

### 7. 恋と自然との関係

若い男女が密会する安全な場所、食事の材料の調達、場所の教え。

これらの7つの項目はそれぞれ独立して歌い上げられる。ある言葉はそれぞれの項目のどちらかに含まれ、島人の心の叫びとなっている。つまり、自然に関する事は、それを歌い上げるときの、言葉や旋律、あるいは囃子として表現するが、これは島人の心の概念として島人の悲しみ、喜び、自然に対する驚異等を表現していることになる。八重山の島人は農業が主であるが、多くの共同作業をするときには歌を歌いながら作業を進めてきた。また、村社会で行なう行事の時、例えば、お祝い事や新築祝い、村の行事等でも歌を歌いながら進めてきた。これは民俗音楽には、音と感情との間に文化的な同一性が見られることになる。つまり、島人は共同作業ということに付随することで自然環境を見つめ、歌の世界を島人の共通の世界として認識した。特に、漁に関する教訓は、八重山の島人がかつて採集狩猟農耕民であったことを物語っている。

与那国島では7つの分類のうち漁に関する教訓、恋と自然との関係の2つの民族誌的内容の歌、石垣島で

は農耕的儀礼、漁に関する教訓、自然と果報の願い、祝い事の関係、教訓、恋と自然との関係の6つの歌がある。

与那国島、石垣島での自然に関連する歌の歌われる場所は、行事、結婚式、生まれ年の祝い、新築祝い等の祝いの席で歌われる。アヨーはヤマニンジュ（氏子）や村人等集団で斉唱され、もともと祭祀と関わりを持っている。ユンタ、ジラバは実際に働きながら歌う労働の歌で交互に歌ったり、囃子を入れたりして労働の休みを取り入れる。ユングトゥは御嶽の庭や祝いの席で歌い内容は色々ある。しかし、これらは島の自然の中でも村の生活に必要なものを島の共同体社会の中で共通に認識すべき事を歌を通して村の人々の共通のものとしてお互いに再認識したに違いないと考えられる。労働や村の集まりを通して島人は自然環境を認識していたのに違いない。

今、八重山の海から消えたジュゴンを始め多くの動植物環境の変化が見られる。歌われた当時、島々には豊かな自然環境が認識されていたはずなのに、そのすばらしい文化遺産が消えてしまいつつある。今一度、我々はすばらしい八重山の自然環境を見つめ直すことが必要である。また、すばらしい自然環境があるからこそ歌が生みだされたと言っても過言ではない。